

学校教育目標	ひとがすき まちがすき いわさきの子 (知)ともに学び合い、ねばり強く解決していける子を育てます。 (徳)自分も友達も大好きで、心豊かに正直に生きる子を育てます。 (体)心と体の健康を鍛え、自分や人の生命と体を大切にする子を育てます。 (公)「ひとがすき、まちがすき、いわさきの子」をめざし、地域と豊かにかかわり、共に生きる子を育てます。 (開)様々な人々とのコミュニケーションや体験を通して、日本や世界の文化や歴史を学び、社会の変化に対応できる子を育てます。

学校概要	創立 92 周年	学校長 小林 雅弘	副校長 佐々木 唯吉	2 学期制	一般学級: 12 個別支援学級: 3
	児童生徒数: 345 人	主な関係校: 岩崎中学校、桜台小学校、瀬戸ヶ谷小学校、保土ヶ谷小学校			

<p style="text-align: center;">教育課程全体で 育成を目指す資質・能力</p> <p style="text-align: center;">＜自分づくりに関する力＞ ～豊かにかかわり合い、自分のよさに気付く～</p>	<p style="text-align: center;">岩崎中 ブロック</p> <p>岩崎中学校 桜台小学校 瀬戸ヶ谷小学校 保土ヶ谷小学校</p>	<p style="text-align: center;">小中一貫教育推進ブロックにおける 育成を目指す資質・能力を踏まえた 「9年間で育てる子ども像」と具体的取組</p> <p>自ら生活を切り拓いていくために、課題を見つけ解決しようとする主体的な児童・生徒</p> <p>・ブロック主幹会を定期的に開催し、小中連携の取組を計画的に進める。 ・月1回のペースでブロック専任会を開催し、各校の様子などについて情報交換をすることを通して、児童生徒理解を相互に深める。 ・ブロック内での授業参観や授業研究会などを通して9年間で育てる資質・能力の具現化に向けたカリキュラム・マネジメントを推進する。 ・児童生徒間での小中交流を活発化させ、相互理解を図る。</p>
---	---	--

<p style="text-align: center;">中期取組目標</p>	<p>◎人権尊重を基盤とし、児童一人ひとりを徹底的に大切にする学校づくりを推進します</p> <p>○自ら課題を見付け、自分なりの考えをもち、他者と協働して解決する、主体的・対話的で深い学びの実現を目指します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1年目は、粘り強く課題に取り組み、対話を通して解決していく授業づくりを推進します。 ・2年目は、自分の考えを分かりやすく他者に伝えたり、他者の考えを理解したりするコミュニケーション力を高めます。 ・3年目は、豊かなコミュニケーションを通して、自分の考えを深化させ、自らのよさに気付けるようにします。 <p>○まちの「人」とのつながりを大切にし、豊かな体験を通して、いわさきのまちを愛する心を育てます。</p>
--	---

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①児童の実態を基に主体的・対話的で深い学びが実現できるようなカリキュラム作りに取り組む。②年間を通して、各学年で基礎的学習習慣がしっかりと身に付くように指導を丁寧に行う。③チャレンジタイム(計算・漢字)や朝読書を通して、基礎的な学力向上を目指す。④学年内・校内での教材研究に努め、人権的視点も意識した授業力の向上を目指す。
徳	人権教育	①道徳の時間及び日常の教育活動において、基本的な生活習慣の形成を中心とした実践的態度を養う。②人権週間及び日常の教育活動において、児童相互の意見交流や認め合う活動を取り入れ、自尊感情を高める。③教職員の人権意識を高められるよう特別支援の研修等、多様性に目を向けた研修を行う。
体	健康・安全教育	①運動委員会を中心とした体力アップ週間を行い、体を動かすことの心地よさや体力の高まりを子どもたちが感じられるようにする。②学校保健委員会に全学年の子どもが参加して、基本的な生活習慣への意識を高める。③避難訓練を月一回行い、全職員と子どもが様々な状況を想定して行動できるようにする。
公開	ESDの推進	①「主体的・対話的で深い学び」の視点から、各教科において、問題解決的な学習を適切に位置づけ、児童が探究的かつ主体的に学ぶことができるような学習計画を編成する。②各教科で、適宜グループ活動を取り入れたり、話し合い、協力して調査やまとめを行ったりして、発信をするなどの協同的な学びの場を作る。
いじめへの対応		①全職員でいじめに関するアンテナを高くして、日常に潜むいじめについて積極的に認知し、子どもの心情に寄り添うことを徹底する。②月1回以上必ずいじめ防止対策委員会を実施して、認知された案件の経過観察を丁寧に行うことで再発防止に務める。③定期的にいじめ防止研修を行い、ぶれない指導が行えるようにする。
人材育成 組織運営(働き方)		①授業研究会や様々な分野の校内研修を継続的に実施し、授業力をはじめとした教職員のスキルアップを図る。②キャリアステージにそって設定した目標をもとに面談し、職員の学校づくりへの参画意識と自己有用感の向上を図る。③メンターチームの研修はミドルリーダーや校内人材を講師とし、教師としての力を高める。④ミライムの活用により連絡事項を共有し、効率的な働き方を目指す。
特別支援教育		①一般学級と個別支援学級の連携強化に向けて、合同打合せを積極的に行い、学年通信と個別支援学級通信の連動を図る。②児童が安心して過ごせるような、ユニバーサルデザインの環境整備を全職員で目指す。③障害を理由に、授業に参加できない状況にないか常に教育活動を見直し、誰一人取り残すことなく、授業に参加できるように取り組む。
児童指導・児童理解		①学年は個々の児童の様子を共有し、同じ考えで指導することを確認する。また、一人ひとりを教員皆で見守り、指導する・ほめる・認める等の連携を図る。専任とも連携を図り、組織的に対応し、記録を残す。②児童指導部、専任を中心に、児童の細かい変容を敏感にキャッチし、いじめの解決や個々に抱えている困り感を学校全体で共有し見守る。
体験的活動		①遠足・集団宿泊的行事の学年ごとのねらいや求めたい具体的な児童の姿の明確化を図り、児童が主体的に判断して、他者と関わったり、社会参画したりする姿勢を育むため、教科学習やペア学年での活動のよさを生かしたプログラムづくりを行う。②これまで実施してきたまち探検や米作り体験をはじめとして、生活科や総合の時間を児童が地域や社会の魅力的な材と関わる機会と捉え、他教科との連携も図りながら、教科横断的な学習への取組を推進する。
地域との連携		①感染防止対策のために、タブレットを活用してのリモート授業参観を実施したり、教育活動の目的を積極的に伝えたりする。②教科横断的な視点からカリキュラムマネジメントを推進し、地域人材の開発や新たな地域の材の発掘に努める。
担当		児童活動部